

Vine

「地域の中核、世界の人材」
UNIVERSITY OF YAMANASHI

山梨大学広報
ヴァイン

2016
vol.28
March

[特集] 学長インタビュー

学長就任一年を振り返って

[特集]

障害学生修学支援室



[人物発掘] 喜多村 和郎 教授 大学院医学工学総合研究部 医学学域 基礎医学系

[ゼミ紹介] 生命環境学部生命工学科 分子代謝工学分野 楠木・大山研究室

[ぴっくあっぷレッスン] 工学部機械工学科 伝熱工学

[サークル紹介] g^2 / 山梨大学馬術部

学長就任一年を振り返って

学長 島田 眞路

6年間の附属病院長を経て学長に就任し1年が経ちました。この間、いかにして山梨大学を発展させていくかということ真剣に考え、皆さんとの真摯な意見交換を経て、さまざまな課題に取り組んできました。

国立大学が法人化されて12年。財政状況は年々厳しさが増しています。しかし、手をこまねいているわけにはいきません。今すべきことは、特徴・個性を見出し、得意分野を伸ばすこと。私たちには、ワイ科学・燃料電池・水管理など世界に誇れる数多くの得意分野があります。これらに続く萌芽の分野を伸ばしながら、「これは山梨大学にしかできない」と思ってもらえるような、『世界に拓かれた山梨大学』を実現していきます！



素晴らしかった、大村智先生のノーベル賞受賞

この灯を大きなうねりにしていくため 大村智記念基金を創設しました

昨年最も印象的だった出来事は、なんといっても大村先生のノーベル医学・生理学賞の受賞ですね。

昨年10月の「特別荣誉博士」の称号授与式には、先生ご本人が本学キャンパスにお越しになり、私も直接お話をさせていただきました。そして、故郷へのあたたかい思いに心打られました。

先生の受賞は山梨大学にもたらされた明るい灯ですから、これを大きく力強い光に育てていくことが大切です。そこで本学では、燃えるような情熱を持って研究に取り組む学生を応援し、第二、第三の大村智を輩出すべく、大村智記念基金を設立しました。

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)」に採択

県内11大学が一体となって 地方創生に取り組みます

新たに力を入れて取り組んだこととしては、地域振興があります。地方国立大学の使命の一つは、地域の発展のために貢献するという事ですから。昨年、本学が中心となり、県内大学、横浜市立大学、自治体及び企業とチームを組んでの「オールやまなし11+1大学と地域の協働による未来再生の推進」事業が「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択されたこともあり、地域の発展に貢献できる人材を育成するため、本学に「地域未来創造センター」を創設しました。

今後は、ものづくり、介護、まちづくり、人材確保など、さまざまな分野で地域発展に寄与すべく、事業を推進していきます。



昨年12月、新病棟がオープン

医学部附属病院が 国内屈指の最先端医療機関として 生まれ変わります

現在、医学部附属病院の再整備事業が進んでいます。昨年末その第一弾として新病棟がオープンしました。国内初の可動式3テスラMRI手術室やハイブリッド手術室、内視鏡手術用の医療ロボット(ダヴィンチ)を使った手術室など、さらに充実した医療環境が整備されつつあると自負しています。

最先端の医療環境は、研究者にも学生にも、もちろん地域の方々にとっても、大きな魅力です。今後は、新々病棟の建築や、外来棟、中央診療棟の改修も順次進めていき、再整備事業を完成させる予定です。

大切なのはコミュニケーション

オフィスアワーを設け 学内交流をすすめています

病院長時代、組織を円滑に運営するために最も重要なのはコミュニケーションであると実感してきました。そこで、学長となったのを機に学内のみなさんと幅広くコミュニケーションを取りたいと

考え、毎週月曜日・10:00~12:00に、「誰もが気軽に入れるオフィスアワー」を設けることにしました。昨年は、8組21人の学生・教職員とさまざまなお話しをすることができました。今年はさらに多くの方にお会いできればと思っています。

世界に拓かれた山梨大学へ

海外の大学や 研究機関との連携を深め 共同研究や共同プロジェクトを 推進していきます

海外とも連携を深め、山梨大学に何ができるかということを探り、良い所をさらに伸ばしていきたいと考えています。昨年は、西南交通大学、瀋陽薬科大学、浙江大学附属国際病院、ジョージヤカルタ州立大学と教育・研究に関する協定を締結し、交流を深めていますし、今年は、精華大学、北京協和医学院、浙江大学医学部、杭州電子科学技術大学、ボルドー大学などの新たな連携を予定しています。

目指すは、世界に発信できる山梨大学であり、学生交流だけでなく、共同研究や共同プロジェクトといった活動へと広げ、世界に拓かれた山梨大学づくりを進めて行こうと考えています。



学長
インタビュー
ひとこま



自分の選択をベストと信じて進む先にこそ、未来はあるのです

私は中学の頃から野球をやっていて、中学3年のときには、京都市の大会で準優勝したこともありましたが、大学でも医学部の野球部に頑張っていたのですが、その時のつながりが山梨に来るきっかけになるとは、思いもしていませんでした。山梨は私にとって全く縁のなかった土地でした。たまたま野球部の先輩が山梨医科大学(当時)の初代教授で、お声をかけていただいた。その時、私は留学中でしたが、わざわざアメリカまで来て誘ってくださったのです。34歳の私は、そこまで認めていただけるというのは嬉しかったし、チャンスだと思って来たわけです。

人間は誰も、すべてが思い通りにいくわけではありません。自分で決めた通りにもいきません。では何が重要なのかと言えば、その時々ベストな選択をしたと信じ、前を向いて進んでいくこと。私はその信念に従って、今も突き進んでいるのです。



障害学生修学支援室

～ともに生きる社会を、山梨大学から～

障害学生修学支援室は、障がいのある学生の修学を支援するための相談室として2014年4月に設置されました。支援室では、障がいがある学生も共に学べる環境作りのために、学生本人、教職員、ボランティア学生をつなげる役割を担っています。

学生が学び合い、ともに支え合う大学を目指します

障害学生修学支援室長 小畑文也



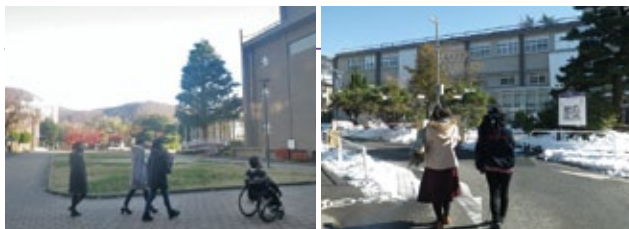
小畑文也室長

「障がい」というと、「車椅子」「白杖」「手話」等のイメージが強いのではないかと思います。当支援室では本年4月1日より施行される「障害者差別解消法(通称)」に基づき、「障害者手帳」の有無にかかわらず、修学上のハンディを持つ学生全てを支援の対象とします。つまり、従来、障がい学生の中心であった「肢体不自由」、「視覚障害」、「聴覚障害」に加え、近年増えつつある「発達障害」や「難病」をもつ学生など、「見えない障がい」を持つ学生も支援対象となります。ただし、これらの支援は、あくまで本人の希望に基づいて提供されます。人によっては支援要請に抵抗がある方もいらっしゃるかもしれませんが、自分の持つ「障がい」が修学上のバリアになっている方は、まずは、自分自身の「心のバリア」を取り除いて、当支援室を有効利用してください。

一人ひとりのニーズに合わせたサポート体制

当支援室では、障がいのある学生からの支援希望を受けて、構内環境の調整や、教職員への配慮の依頼、学生ボランティアの派遣等を行っています。また、学生本人からの相談だけでなく、保護者や教職員の方からの相談にも応じています。

修学上の特別な配慮や支援を希望する学生は、当支援室にご相談下さい。本学の障害学生修学支援委員会にて認定を受けていただいた後、学生と一緒に支援室と学部(教員・職員)が具体的な支援の計画を立て、連携しながら支援を実施します。



バリアフリーのチェック(甲府西キャンパス/甲府東キャンパス)



バリアフリーの助言



バリアフリーマップの作成



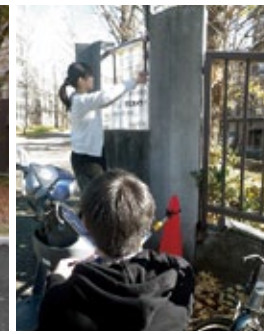
車椅子介助の演習



学生ボランティアによるスロープなどの雪かき



スロープなどの清掃



掲示板等の整備

学生ボランティアの声

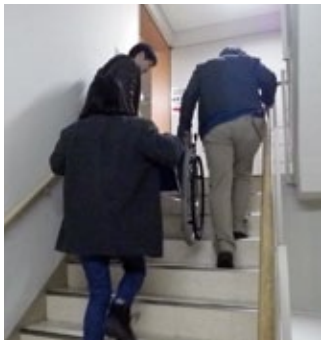


越川 彩さんと佐藤誠也さん

♥️ 教育人間科学部2年 佐藤誠也さん

私が「支援される側」と「支援する側」の二つの面をもつようになったのはひょんなきっかけからだった。私は普段から車イスで生活しており、支援室には入学時からお世話になっている。構内の設備を整えていただいたり、学外での実習に向けての準備も進めていただいたりしている。それまでは「支援される側」の立場だけだった。

その日、私は支援室の方と、大学生活に関する定期面談を行っていた。その時の一言、「今、学生ボランティアを探してるんだよねえ。」それが「支援する側」への入り口だった。その扉を開けてみて分かったこと。それは、支援するということは自分の過去の経験を見直すことだ、ということである。つまりこれまでの人生で通ってきた道にあった”段差”に、後から気づくということである。その“段差”について一緒に考えることで、自分の中に新しい視点、考え方が生まれるのである。それは私自身が今後、段差に出会ったとき役に立つ蓄積になると考えている。支援を通して私はこのようなことを学ばせてもらっている。今年度のMVPを決めるなら、「僕、やりましょうか?」と答えた私に贈りたいと思う。



♥️ 教育人間科学部4年 越川 彩さん

私が障がい学生支援を始めたのは、自分が所属するゼミの教授からの誘いがきっかけでした。障がい学生支援といっても、どんな支援をするのか、自分につとまるのか、少し不安がありました。しかし、私は、障害児教育コースに所属しており、これからも障がいのある人々と深く関わっていきたい、少しでも自分が役に立てることがあるのなら力になりたい、やってみたいという気持ちの方が大きく膨らんでいきました。

いざ活動を始めてみると、新しい発見の連続でした。車イス補助の仕方や構内のバリアフリー状況調査、ユニバーサルデザインに関する学習など、学校の授業では学びきれない多くのことを得ることができました。特に、構内バリアフリーの状況調査では、普段何気なく行動している構内でも、様々な工夫が施されていることに気がきました。それと同時に、まだまだ工夫が必要と感ぜられる箇所もありました。

一昨年、「障害者の権利に関する条約」がわが国でも批准され、今後はますます障がいのある学生とともに学ぶ機会が増えると思いますが、健常者も障がい者も共生できる環境づくりをこれからも進めていきたいと思っています。



事前学習会

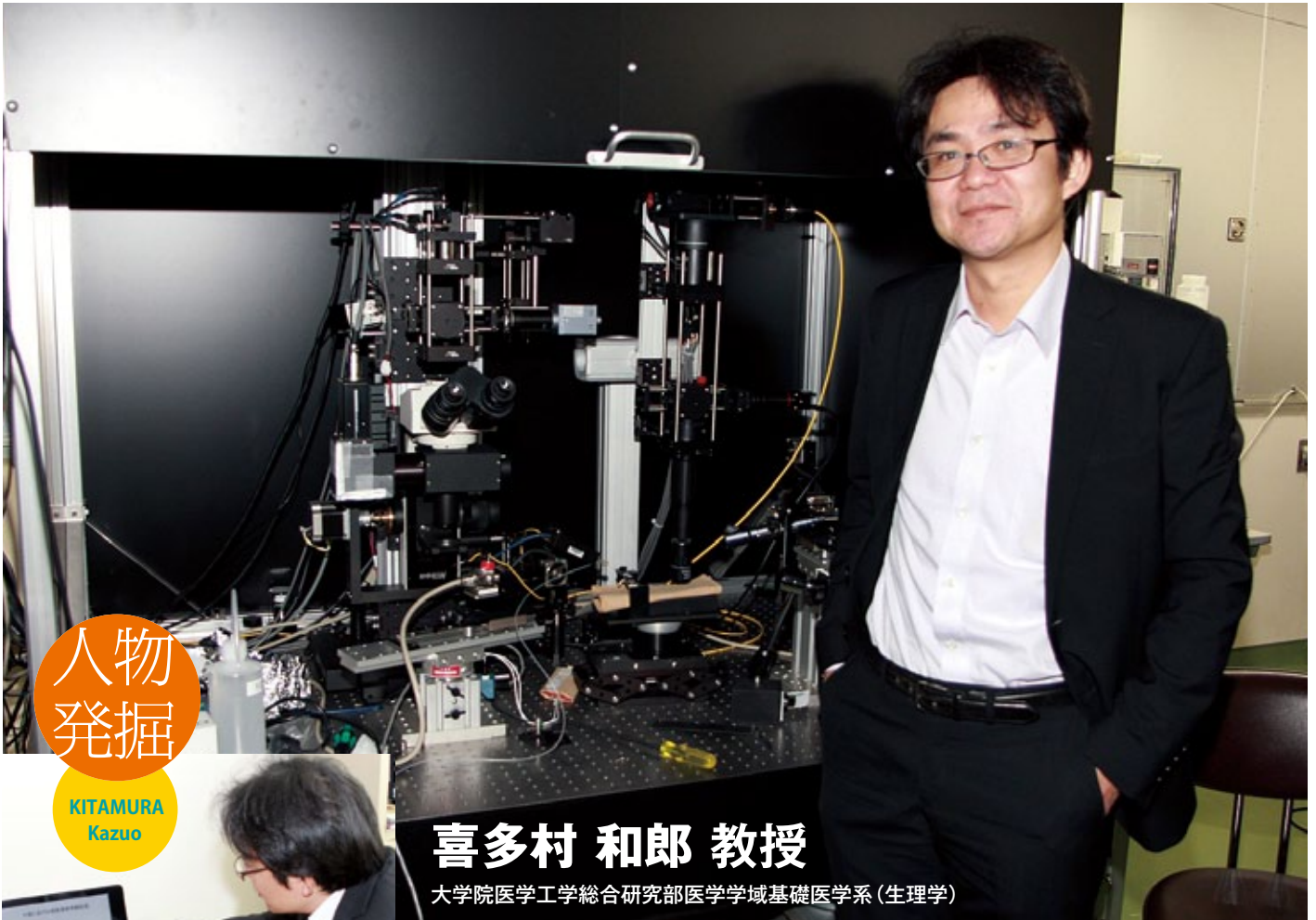


ホームページの立ち上げ



ホームページ <http://www.sp-needs.yamanashi.ac.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/spneeds/>



人物
発掘

KITAMURA
Kazuo

喜多村 和郎 教授

大学院医学工学総合研究部医学学域基礎医学系(生理学)



純粹に「おもしろいから」研究を続けて来たど、
実験の手順を楽しそうに語り、得られた現象を美しいと称する喜多村和郎教授。
「運動中、脳の中で何が起きているのか」というテーマのもと、
特殊な顕微鏡を用いて、脳機能の解明に挑んでいます。

中学～高校は、スポーツに夢中

僕は小学校まで茨城で過ごし、中学生のときに、親の仕事の都合で神戸に引っ越して、それからずっと関西で育ちました。

子どもの頃から身体を動かすことが大好きで、中学時代はハンドボール部、高校に入るとハンドボール部が無かったことからテニス部に入りました。早朝から練習をして、授業に出て、昼休みも練習。放課後になると、ボールが見えなくなるまで練習をして、その後も遅くまで走ってと、本当に毎日そんな生活でした。3年生の夏休み前に部活を引退して、そこでふと、「さすがに勉強もせなあかんやろ」と一念発起し、そこからはちゃんと勉強しましたね。

「ユニークでおもしろそう」という “軽いノリ”で大学に進学

大学は、大阪大学基礎工学部生物工学科へ進みました。当時は好景気で、日本

中が浮かれていたようなところがありましたから、志望校を決める際にも、将来のビジョンなんて全くありませんでした。ちょうどその頃、バイオテクノロジーが流行り出したことに感化され、「生物学っておもしろいかも」と思うようになっていました。でも、普通に生物をやるのではつまらない。その点、基礎工学部の生物工学科は、他大学にはない珍しい学科だったので、「行ってみようかな」と軽いノリで進学を決めました。

物理学や工学の視点で生物を 研究することのおもしろさに目覚め、 研究者の道へ

さて、無事合格し、入学できたのはいいのですが、生物工学科は、生物とは名ばかりで、勉強させられるのは物理や数学ばかり。これは大変なことになったと思ったのですが、やっていくうちにドンドンそのおもしろさにはまり、当時もっとも興味深かったのは、

柳田敏雄先生の授業でした。

柳田先生は、ミオシン、アクチンと言った筋収縮にかかわるたんぱく質の研究をされていて、一個一個のたんぱく質分子を顕微鏡で見ながら力や動きを計ってどんな働きをしているか調べたり、筋肉の中で起こっている運動を顕微鏡下で再現して実際に見てみるというようなことをされていた。今から20年ほど前のことなのですが、当時はまだそういったことのできる顕微鏡は売ってなかったの、自分たちでつくるしかなかったんですね。講義の中で試行錯誤を繰り返しながら進める研究の話をしたり、実際に顕微鏡で見せてくれたりするので



すが、僕にはそれがとてもおもしろかった。それで、柳田先生の研究室に入り、筋肉がどのように力を出しているかというようなことを研究したところ、それがまたおもしろく、大学院を卒業した後もしばらくその研究を続けました。

実験の醍醐味は、 その場でその現象を見られること

転機となったのは、ロンドン大学に留学していた頃です。筋肉の研究にも一区切りついたので、そろそろ違うことをやろうかなと思っていて、それで、もともと興味があった脳の研究を始めることにしました。伝統的に脳の研究は医学部でなされてきましたが、今では様々な分野の研究者が異なった視点で研究しています。帰国後は研究室のある医学部に所属し、今に至っています。

現在の専門は、「神経生理学」で、主には、運動するときに脳がどういった活動をしているかということの研究をしています。基本的に脳の神経細胞は電気信号によって情報処理をしているので、直接電極でその活動を記録したり、脳の細部を見ることができると、特殊な顕微鏡を使って運動中の脳の活動を観察したりということが研究活動の中心になります。

実験には、ヒトの脳を覗いてみることはできないので、マウスを使います。例えば、活動中の脳細胞に大量にカルシウムが注ぎ込まれることから、カルシウムを検出する特殊な色素を脳に導入したマウスに運動させると、脳が活動する様子がピカピカと光って見える。そういう現象を見ているだけで、ワクワクしてきたり、感動して震えてきたりするんですね。それが何かの役に立つかと言えば、立たないかもしれない。でも、僕の場合、脳の中で何が起きているのかを知りたいというのが一番のモチベーショ

ンなので、そこはあまり考えないんですが、結果的に研究の成果が世の中の役に立つとすれば、それはとても嬉しいことだと思っています。

座右の銘は、 「やったらしまいや」

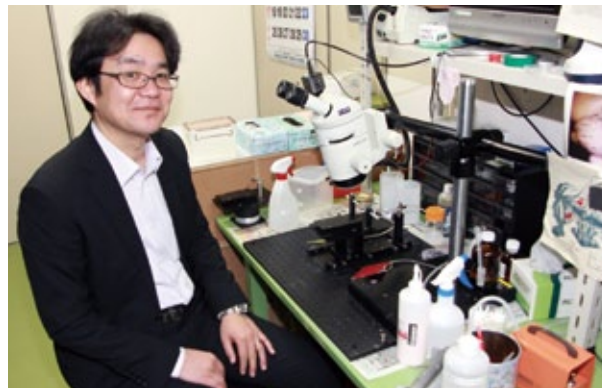


研究室のホワイトボードに貼っている柳田先生から色紙

恩師の柳田先生の口癖です。最先端の研究をされているので、先生のアイデアは突飛なことが多いんですよ。なので、「先生、そんなんできかないでしょ」なんてことを言うと、「やったらしまいや」と。関西弁で、つべこべ言わずにやれという意味です。先生は退官されるときに、この言葉を教え子みんなに送って来られた。「つべこべ言わずにちゃんとやれ」ということなんでしょうね、きっと。

ところで、僕は、高校生の頃には、研究者になるなんて想像していませんでした。もちろん、自分自身明確なビジョンがあって、それに従って大学を選び、進んでいくというのが理想なのですが、みんながみんなそうである必要はないと僕は思うんです。人生には、岐路はたくさんあります。その都度、周囲の声とか世間体とかに縛られることなく、自分で考え、その時自分がこうしたいんだということを選んで、一生懸命に打ち込んでいくこと。それが一番だと思うんです。そうすれば、たとえそれがどんな道でも、後悔しないと思いますね。

それから、今している勉強が将来なんの役に立つかわからないからやらないのではなく、きっと、必ず何かの役に立ちますから、一生懸命勉強してください！



今、自分がこうしたいという
純粋な気持ちに従って、
一生懸命に打ち込むこと。
それが多分、
一番大事なんだと思います。



人物
発掘

きたむら かずお

- 1993年 3月 大阪大学基礎工学部生物工学科卒業
- 1998年 3月 大阪大学大学院基礎工学研究科修了
- 1998年 4月 日本学術振興会特別研究員PD
- 1999年 1月 科学技術振興事業団
一分子過程プロジェクト研究員
- 2003年 2月 日本学術振興会海外特別研究員
- 2005年 2月 ロンドン大学ユニバーシティカレッジ研究員
10月 大阪大学大学院医学系研究科助手
- 2007年 9月 東京大学大学院医学系研究科助教
- 2010年 8月 東京大学大学院医学系研究科准教授
- 2014年10月 山梨大学大学院総合研究部教授

【専門分野】

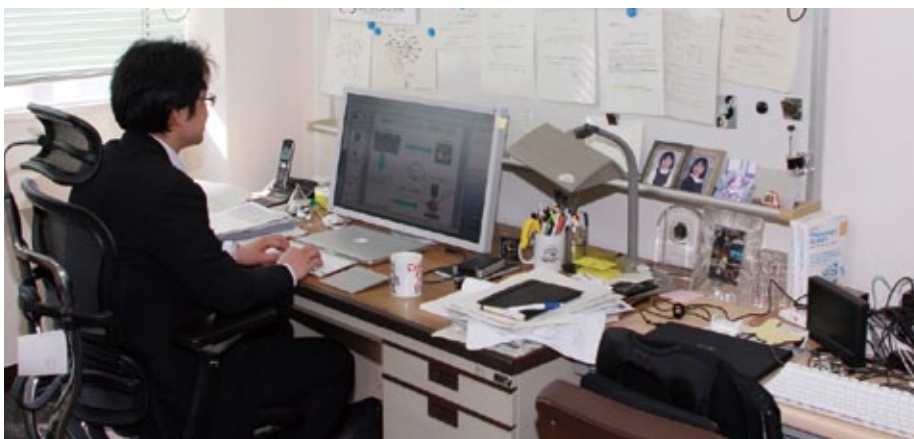
神経・筋肉生理学、神経科学一般、生物物理学

【研究テーマ】

大脳及び小脳における感覚運動情報処理基盤の解明及び先端的光学イメージング手法の開発

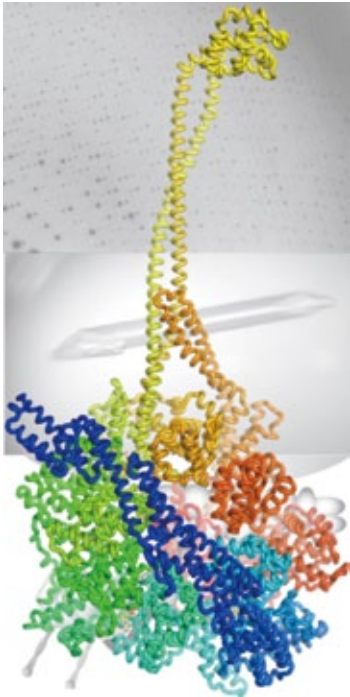
【受賞歴】

平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞(文部科学省)(2010年)
井上研究奨励賞(井上科学振興財団)(2001年)



生命環境学部生命工学科 分子代謝工学分野 **楠木・大山研究室**

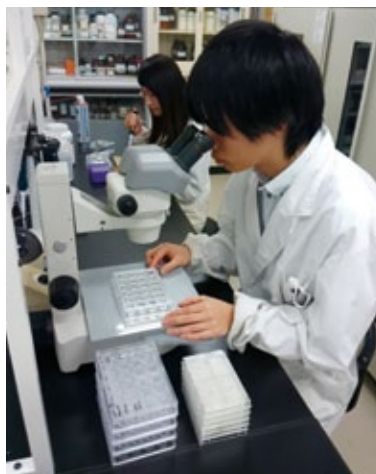
大山 拓次 准教授



モータータンパク質ダイニンの結晶構造。2015年までに世界中で決定された11万件以上の構造の中で、本構造は最も長い(約3300個)アミノ酸配列を持つ。

解析法を用い、タンパク質の立体構造を原子レベルで解析しています。立体構造が明らかになれば、個々のタンパク質分子が特定の化合物や生体高分子(他のタンパク質や核酸)に作用する仕組みが明らかになり、機能を改変するよう分子を設計することも可能となり、さらには病気の原因解明と治療薬開発への道が開けます。私たちはDNA複製や脂肪代謝に関連するタンパク質を中心とし、様々なタンパク質の構造解析に取り組んでいます。

タンパク質は20種類のアミノ酸が鎖状につながった高分子で、コンパクトに折りたたまって機能を発揮しますが、タンパク質ごとにアミノ酸の数や配列が異なるため、それぞれの構造も異なります。また、数個から数十個の分子からなる巨大な複合体も数多く存在し、より複雑な生体反応を行うことが可



結晶化実験と結晶観察、宝石を見逃さないように

研究テーマ

『タンパク質:構造が機能を物語る』



ある日の研究室勉強会の様子

タンパク質は生体内に何万種類も存在し、それぞれ個別の機能を担っています。私たちはX線結晶構造

能です。反応の進行に伴って、また環境や生体の状況に応じて大きな構造変化を起こすこともあり、未知の姿に出会えるのも醍醐味の一つです。

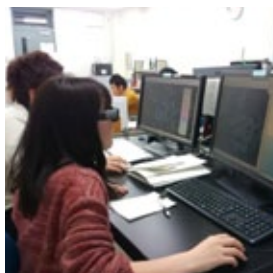
結晶構造解析では目的タンパク質を結晶化しますが、構造と同じく、結晶化条件もタンパク質ごとに異なるため、結晶化は宝探しのごとく多大な労力と時間を費やす必要があります。また、得られる結晶は大きくてもせいぜい数百 μm と小さいため肉眼では観察

できませんが、顕微鏡下で宝石のごとく光り輝く結晶を見つけた時の喜びは格別です。

タンパク質結晶にX線を当てると無数の回折点が観察されます。個々の回折点強度を数値化し、それらを用いて構造解析計算を行うと、コンピューター上で何百万倍にも拡大された立体構造が浮かび上がります。その姿はタンパク質の機能を言葉無くしてものがたり、私たちが地上に創造するあらゆるものよりも、細部にわたり完璧に練り上げられた精巧さを持つ原子レベルの精密装置と言って過言ではありません。

立体構造を正しく理解するためにはやはり3Dグラフィックスが欠かせません。研究室の解析コンピューターは全て3D機能を搭載しています。専用メガネを着用して画面をのぞき込みながらのディスカッションは、さながらSF映画の1シーンのようです。

タンパク質を始めとする生体高分子が時間的・空間的に無限と思えるほどの連携を築いて生命を支える仕組みは複雑にして巧妙ですが、個々の物質や反応に焦点を当てれば化学的に理解可能です。私たちはタンパク質立体構造の観点から知識を積み重ねることで『生命の神秘』に少しでも近づきたいと考えています。



3Dグラフィックスコンピューターを用いた構造解析



3Dグラフィックスを使ってディスカッション

【担当教員】

工学部機械工学科 鳥山孝司 准教授

「伝熱工学」とは？

身の回りに生じている熱移動現象(熱伝導、対流熱伝達、熱放射)の基礎を理解し、伝熱量の計算や簡単な熱設計ができるようになることを目標とした授業です。

どんな授業なのか？

工学部機械工学科2年次の後期に開講している専門科目です。高校の物理学においても、熱エネルギーの保存に注目した熱力学の基礎を学習していると思います。伝熱工学は、その熱エネルギーの移動方法や移動方向、熱流束(単位時間・単位面積当たりの熱エネルギーの移動量)等に焦点をあてた科目です。

熱エネルギーは温度の高い方から低い方へと伝わります。この際、温度差が大きいほど熱流束は大きくなります。実際の熱エネルギーの移動量(伝熱量)は、熱流束に対して熱の伝わる面積(伝熱面積)と伝わった時間で求めることができます。エアコンなどの空調機器では、室内の空気から熱エネルギーを奪ったり(冷房運転)、熱エネルギーを与えたり(暖房運転)することで空

調を行いますので、これら熱交換を行う機器の性能は伝熱量が大きいほど良いこととなります。しかしながら、伝熱面積を大きくすることは機器を大型化することになり、製造コストの増大や設置場所の制限に繋がってしまうためあまり良い事ではありません。そこで、必要な伝熱量の計算や、それに対応する設計するといったことが必要になってくるのです。このように、応用的な機器に利用される様々な伝熱の形態の基本現象を理解すると共に、伝熱量の計算や簡単な熱設計ができるように、グループワークも活用しながら実施しています。

【高効率化への適用例】

私の研究室での1つの研究例として、太陽光発電パネルの冷却というものがあります。家庭用の太陽光発電パネルは、コストの関係からシリコン系が主として使われていますが、このシリコン系は1℃温度が上昇する毎に、電気への変換効率がおよそ0.4%減少するという問題点があります。従って、太陽光照射量の多い夏場よりも涼しい春や秋の発電量の方が多いといったことが生じます。このような問題点を解決するために、太陽光発電パネルの裏面に通水管を設け、太陽光発電パネルを冷却すると共に、冷却時に回収された熱を温水として活用しようとするシステムの開発を行っています。いかに効果的に冷却し、回収するかが重要な課題となっています。このように、省エネルギーのための機器の開発にも伝熱工学は活用されています。



教室内の様子



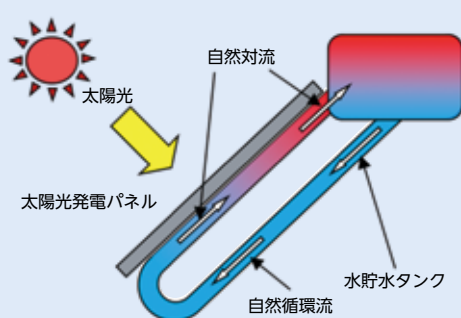
グループ内でディスカッション



演習課題への取り組みの様子



太陽光発電パネルの発熱量の推定実験
(傾斜角30°は日本国内における一般的な角度)



開発中の太陽光発電パネル冷却システムの概要

サークル紹介



皆で楽しくゲーム制作をしています。
興味がある方はぜひ見学どうぞ!

g^2(ジーツー)

GAME-CREATE CLUB [g^2]



部室での活動風景



制作作品
「コクリコクラレ」



コミティアでの頒布準備中

こんにちは、山梨大学ゲーム制作サークルg^2(ジーツー)です。私達のサークルではパソコン向けのノベルゲーム(シナリオを読み進めるアドベンチャーゲーム)などのゲームを軸にゲーム作りを行っています。

ゲーム、パソコンという「プログラムを書くから工学部のコンピュータ系のひとが多いのかな…」などと思われるかもしれませんが、実際には教育人間科学部や生命環境学部など、幅広い学部の学生が所属し、1年生が4人、2年生が6人、3年生が12人の計22人で活動しています。g^2ではグループでゲームを作るためお互いに足りない部分を補ったり自分自身の持ち味を活かしたりしてゲーム作りをしています。入部時点でゲーム作りの経験者はほぼいません。

普段は毎週木曜18時からサークル棟で活動しています。文化祭や他のイベントでの頒布をするために毎週自分たちのゲームの制作状況や意見交換を行う部会を開催しています。グループで作っていくのでこの部会での話し合いが作品に大きく影響しますし、切磋琢磨し合う機会でもあり、とても重要です。学業優

先としているため、テストの多い時期には部会自体を休止することもあります。

ノベルゲームでは企画者、シナリオライター、イラストレーター、プログラマー、オーディオマネージャーが必要不可欠です。もちろん、一人がすべてを担うのは難しいので、メンバーそれぞれの得意分野を活かして分担します。「どれも経験がない…」という人には経験者からのアドバイスなどでサポートしていく体制をとっています。

完成したゲームは様々なイベントで頒布し、いろいろな人の手に渡っていきます。そして、感想をいただき、この感想が刺激となって、次のゲーム作りへのエネルギーとなっています。

最近ではメンバーが増え、ノベルゲームに限らず音楽ゲームなどいろいろなゲームを作るプロジェクトを立ち上げています。興味のある方は、経験の有無にかかわらず、ぜひ、お気軽に見学に来てください。



サークル全員での集合写真



山梨の雄大な自然の中で
馬といっしょに充実した大学生活を始めましょう!

山梨大学馬術部

UNIVERSITY OF YAMANASHI EQUESTRIAN TEAM

こんにちは!山梨大学馬術部です。私たち馬術部は、医学部キャンパス15名と甲府キャンパス7名、総勢22名の少人数で活動しています。活動場所は主に北杜市で、活動日は土曜日、日曜日、長期休暇が中心となっています。監督の松田潔先生は、山梨医科大学時代の部創設時から監督を務めていただき、日本医科大学教授のお立場にある現在でも温かくご指導いただいています。



部班競技の練習風景

皆さんは「馬術部」と聞いて活動内容を思い浮かべることができたでしょうか?多くの方に「馬術部ってどんな部活なの?」「活動内容は競馬?笑」と質問されたりします。確かに馬術競技はマイナー競技であり、メディア等の影響から「馬」と言えば競馬を思い浮かべる方も多いかも知れません。しかし私たちが行っている馬術はそういったものとは異なるものです。

私たちは主に障碍飛越(しょうがいひえつ)競技、馬場馬術競技、ジムカーナ競技、部班競技の4つの競技部門で勝つことを目指し、日々練習を行って

います。障碍飛越競技は馬と共に障碍物を飛び越えて、障碍の落下数やタイムで点数を競い合う競技です。馬場馬術競技は馬を自在に操り、どれだけ上手く馬に乗れているかを競い合う競技です。これら二つはオリンピックの競技にもなっており、まさに人馬一体とならなければ勝者とはなりえない競技です。ジムカーナ競技と部班競技は主に下級生向けの大会であり、私たちの間では障碍飛越競技、馬場馬術競技に移行する前の関門としています。

私たち馬術部は主に医歯薬連盟が主催の大会、また東日本医科学



馬場馬術競技(上)、障碍飛越競技(下)に挑む部員

生総合体育大会(東医体)、国立大学対抗馬術大会(国立大戦)、全日本看護学生馬術大会(看護体)での優勝を目指して日々練習を行っております。昨年2015年は医歯薬連盟主催の3つの大会で優勝、二つの大会で準優勝、東医体総合優勝、国立大戦優勝と多くの功績を残し、医歯薬連盟からは一年間の成績を讃えられ、年間のベストスクールにも選ばれました!!

これは山梨大学創設以来の快挙でした。しかし、こんな素晴らしい成績を残している我が部は経験者ばかりだと思っはいませんか?そんな事はありません!!何と私たちの部は全員が大学から馬術を始めた人たちです。この結果が残せたのも私たち山梨大学馬術部のチーム力だと思っております。

私たち馬術部はチームで試合に挑み、多くの試練をチームで乗り越え、楽しいことも共有できる仲間を見つけられる部です!!また将来医者、研究者、技術者、教師になる山梨大学の学生が大人になった時、この学生時代から人生の糧となるものを見つけられる部です!!この雑誌「Vine」を見て興味を抱いた学生、山梨の雄大な自然と馬と共に充実した学生ライフを始めませんか?部員一同待っています!!



医歯薬連盟主催のサムス准将杯優勝

山梨大学 大村智記念基金を 創設しました

本学では、大村智先生のノーベル医学・生理学賞のご受賞を機に、先生に続く次世代の若手研究者等の育成を推進するとともに、末永く先生のご功績を顕彰するため、新たに『山梨大学大村智記念基金』を創設しました。

本基金は、本学学生の奨学支援事業、「大村記念ホール（仮称）」建設事業、その他本学の教育研究の質の向上に資する事業などへの活用を予定しています。

ぜひ多くの皆様のご理解とご協力をお願いします。



【問い合わせ先】

山梨大学大村智記念基金事務局

電話:055-220-8358

E-mail:kikin@yamanashi.ac.jp

URL:http://www.yamanashi.ac.jp/omura/fund/

平成28年度 学年暦(年間予定表)

事 項	期 日 等
前期開始	4月1日(金)
ガイダンス等	4月1日(金)～ 4月12日(火)
入学式	4月6日(水)
前期授業開始	4月12日(火)
前期授業終了	8月1日(月)
夏季休業	8月2日(火)～ 9月22日(木) 各学部で定める
秋季卒業式・修了式	9月27日(火)
前期終了	9月30日(金)
後期開始	10月1日(土)
開学記念日	10月1日(土)
秋季入学式(大学院)	10月3日(月)
後期授業開始	10月3日(月)
大学祭(医学部キャンパス)	10月28日(金)～10月30日(日)
大学祭(甲府キャンパス)	11月4日(金)～11月6日(日)
冬季休業	12月23日(金)～1月4日(水)
授業振替日	1月5日(木) 月曜日の振替日
授業振替日	1月10日(火) 金曜日の振替日
後期授業終了	2月3日(金)
春季休業	2月4日(土)～3月31日(土) 各学部で定める
卒業式・修了式	3月23日(木)
後期終了	3月31日(金)

(注) 1. 授業振替日とは、授業回数不足している曜日について、当該不足曜日の授業を振替えて行うものです。
2. 1月13日(金)は、大学入試センター試験準備のため休講となります。



表紙について

◎今号の表紙写真



本学附属図書館にて、学業に励む学生と撮影しました。最初は恥ずかしがっていた学生も、学長の親しみやすいパーソナリティーで、次第に打ち解けていきました。

編集後記

余寒も次第に薄れ、穏やかな春が待ち遠しい季節。新年度を目前に、山梨大学のホットな話題を知っていただきたく、広報誌「Vine28号」を皆様へお届けします。

「開かれた大学を目指す」「大切なのはコミュニケーション」と語った学長。

私たち広報担当も、皆様との日々のコミュニケーションがあって初めてその役割を果たすと考えています。その延長線上に本誌の発行があり、情報発信を通じた「開かれた大学」になると確信しています。

そのために、分かりやすく、皆様の心の琴線に触れる広報を目指します。是非、忌憚のないご意見・ご要望をお寄せください。

(広報グループ)

山梨大学広報 ヴァイン

2016
vol.28
March

発行者:山梨大学総務部総務課

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務課

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8799

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>



山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。